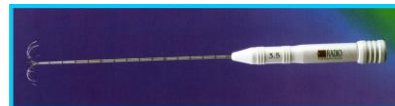
	シーズ名	ラジオ波凝固療法の局所制御率改善のための基礎研究
	所属・役職・氏名	放射線診断学・IVR学・講師・大隈 智尚 (OKUMA, Tomohisa)

<要旨>

ラジオ波凝固療法療法 (RFA) は、電極針を直接腫瘍に穿刺し、ラジオ波で発生する高熱により病変を凝固壊死させる治療法である。当診療科では特に肺腫瘍に対する治療成績や合併症、実験結果などの成果を多数発表している。この治療の問題点は電極針の焼灼範囲の制限から 3 cm 以上の大きな腫瘍では局所制御成績に限界があり、何らかの併用療法の開発が必要と思われる。RFA により腫瘍壊死で崩壊した腫瘍細胞内から抗腫瘍免疫を誘導する抗原が放出されることに注目し、免疫賦活因子投与を行う研究や RFA と血管新生阻害剤や分子標的薬等の抗癌剤の併用による局所制御率の改善にむけての基礎的研究を行っている。

<研究シーズ説明>



実験腫瘍の治療前後の CT 画像と電極針(傘のように開く針を使用)。この治療に抗がん剤を併用することで生存率が改善する。

<アピールポイント>

2000 年 6 月に日本で初めて肺腫瘍に対する RFA 治療が当科で実施されており、臨床研究／基礎研究も多数成果発表を行ってきた。RFA と抗がん剤併用療法についても高く評価された実績があり、RFA 治療の局所制御の改善の基礎研究についてさらなる研究の取り組みを行う。

<利用・用途・応用分野>

切除不能肺がんに対する治療適応の拡大

<知的財産権・論文・学会発表など>

1. Radiofrequency ablation and immunostimulant OK-432: combination therapy enhances systemic antitumor immunity for treatment of VX2 lung tumors in rabbits. Radiology;2013;267:405-13
2. Therapeutic effects of CT-guided radiofrequency ablation with concurrent platinum-doublet chemotherapy in a rabbit VX2 lung tumor model. Radiology:2017;283:391-8

<関連するURL>

<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/radiology/>

<他分野に求めるニーズ>

気管支鏡下でラジオ波凝固療法が可能となれば、体外から針を穿刺する際の気胸や出血などの合併症が減らせる可能性がある。高出力のラジオ波発生可能な気管支鏡を通るケーブル型の電極開発を希望。

キーワード	ラジオ波凝固療法、肺がん、化学療法
-------	-------------------